

×××× 1998年度採集観察会 ××××

場 所：埼玉県飯能市天覧山 雨天決行！
日 程：第2回 7月12日(日)

(以後の予定 第3回10月18日(日)、最終回1999年2月21日(日))

集 合：西武池袋線飯能駅北口階段下 午前10時(時間厳守)
10時05分発、国際興行バス(2番乗り場)乗車、「天覧山下」下車(¥160)
所要時間約15分
コース：バス停から天覧山山頂。山頂にて昼食後付近で採集観察予定。

世話人：平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

※) 遅れて来られる方は2番乗り場で、日高方面行きと高麗川方面行きと武蔵台方面行き以外のバスにご乗車下さい。但し本数が少ないのでご注意下さい。
10時05分以降は10時25分、11時06分、同20分、同37分があります。またバスのダイヤが変更になることがあります。何卒ご了承下さい。昼食は予め用意していただいた方が無難です。

=== 1998年度合宿について (総会承認事項) ===

日時：1998年7月25日(土)～27日(月)
場所：埼玉県秩父郡大滝村

詳細はp. 12を参照して下さい



「通信」原稿は 笹岡文雄へ 〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-12-21

No. 94 の 原稿締切は8月末日です

S 東京蜘蛛談話会例会総会報告 S

1998. 4. 26 (日) 10:10~16:45 目黒区立駒場住区センター

司会進行：平松毅久 (スライド：谷川明男、池田博明)

(1) 萱嶋 泉先生ご欠席のお詫び(代読：平松) 10:10~10:13

(2) 開会の挨拶：新海栄一 10:13~10:15

自己紹介 10:15~10:55

(3) 講演 11:10~16:45

① 安田明雄 「円海山のイソウロウグモ」(スライド)

② 林賢太郎・新海 明 「関東学院構内でのクサグモの成長と密度変化」(スライド)
(発表：林)

(記念撮影・休憩 11:35~12:50)

(総会：12:50~13:55) ⇒ 別項詳述

③ 畑守有紀・金野 晋 「クモタケ完全世代はどんな時生えるか」(スライド)
(発表：畑守)

④ 梅林 力 「出糸突起の形について」(レジュメ)

⑤ 新海 明 「沖縄クモ観察記(3)」(スライド)

⑥ 谷川明男 「西表島のクモ1998」(スライド)

→ ミツカドゴミグモ、ムナグロコガネグモダマシ

リュウキュウミドリヒメグモ、ヤエヤマホウシグモなどの本土では見
られない種の紹介

⑦ 小野展嗣 「キムラグモの発見と岸田久吉の功績」(レジュメ、スライド、録音テープ)
→ ピアノによる岸田久吉作曲の
「鳳凰山」披露

⑧ 新海栄一 「環境指標としてのクモ2」(スライド)

(4) 閉会の挨拶：梅林 力 16:42~16:45

(懇親会 16:45 ~)

参加者：(30名・50音順敬称略)

池田博明、今井正巳、梅林 力、大川秀治、小笠原幸恵、小野展嗣、笠原喜久男、
加藤むつみ、金野 晋、葛原智宣、桑田隆生、小峰光弘、坂田大輔、笹岡文雄、貞元己良、
佐藤幸子、新海 明、新海栄一、鈴木成生、高橋 登、谷川明男、中島晴子、萩本房枝、
初芝伸吾、畑守有紀、林賢太郎、平松毅久、古浜 隆、水野陽介、安田明雄

事務局は 平松毅久 〒350-0816 埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

※ 1998年度総会承認・報告について※

*承認事項

1. 会費値上げについて (運営委員会からの提案)
⇒詳細p. 6 参照
2. 今年度合宿について (新海 明さんから)
⇒詳細p. 12 参照
3. KISHIDAIA 発刊「30周年記念号」の計画 (新海 明さんから)
⇒詳細下記
4. 1997年度決算 (会計: 安田明雄)
⇒詳細p. 4 参照
5. 1998年度予算案 (会計: 安田明雄)
⇒詳細p. 5 参照

*報告事項

1. KISHIDAIA は今年度3号発行。昨年度発行予定のNo. 74繰越の為、例年より1号プラス。(No. 74~76) (編集担当: 池田博明から)
2. 談話会通信は例年通り3号発行予定 (No. 93~95)
(編集担当: 笹岡文雄から)
3. 現在総会・例会に使用している当所(駒場住区センター)が、使用制度改正の為に借り受け困難になる恐れが出ている。今後開催場所の変更がありうること。
(事務局: 平松毅久から)

*その他

合同例会予定 12月6日(日): 多足類懇談会との合同例会(担当・多足類懇談会)
開催場所については上記の通り、変更の可能性あります。詳しくは次号談話会通信
No. 94にて。



KISHIDAIA 発刊「30周年記念号」の原稿募集のお願い

1999年1月でKISHIDAIAが誕生してから、30年になります。そこで、76号と77号を「30周年記念号Ⅰ・Ⅱ」として出版することになりました。以下のような要領で記念原稿を募集しますので、たくさんのご投稿をお待ちします。

記念文 談話会の活動についての思い出、要望などなんでも構いません。字数制限もありません。

締切は 1998年10月下旬(76号)
1999年 2月下旬(77号)を予定しています。

詳細については、〒190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103

Tel 042-522-2605

新海 明まで

東京蜘蛛談話会1997年度決算

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	1,122,400		欄外①
寄付	17,870		
別刷り	132,930		
利息	47,707		定額
前年度繰越し	385,270		
会誌作成		757,050	欄外②
会誌発送		159,790	欄外③
談話会通信		93,270	
報酬・その他の送料		37,880	各局通信事務費
事務一般費		31,687	封筒等
その他		0	
前納会費繰越総額		566,000	
98年度に繰越		60,500	
計	1,706,177	1,706,177	

欄外

①97年度前納繰越	316,000
97年度当年納入	240,400
98年度以降前納	566,000
計	1,122,400

②71号本誌	189,000
71号別刷り	26,250
72号本誌	210,000
72号別刷り	81,900
73号本誌	196,350
73号別刷り	53,550
	757,050

③71号本誌	55,020
71号別刷り	1,490
72号本誌	54,650
72号別刷り	3,360
73号本誌	43,690
73号別刷り	1,580
計	159,790

	総額	うち年度内受領
1998年度前納	336,400	233,600
1999年度前納	117,600	67,200
2000年度前納	47,600	28,000
2001年度前納	25,200	8,400
2002年度前納	11,200	0
2003年度前納	8,400	0
2004年度前納	8,400	0
2005年度前納	8,400	0
2006年度前納	2,800	0
前納合計	566,000	337,200

98年3月31日現在の財政状況

郵便貯金	普通	¥335,576
	定額	¥1,178,812
振替口座		¥19,227
手持ち		¥35,443
計		¥1,569,058

以上相違ありません。 1998年4月26日
 会計 安田明雄 会計監査 笠原喜久雄 鈴木成生

東京蜘蛛談話会1998年度予算

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	549,600		欄外①
前年度繰越 プール金から繰入れ	411,800		
会誌作成		600,000	欄外②
会誌発送		166,050	欄外③
談話会通信		126,850	欄外④
報酬・その他の送料		58,500	欄外⑤
事務一般費		10,000	
計	961,400	961,400	

欄外

	単価	数	計
①会費	2,800	187	523,600
	2,000	13	26,000
計			549,600
②kishidaia74号	200,000	1	200,000
75号	200,000	1	200,000
76号	200,000	1	200,000
計			600,000
③kishidaia74号	270	205	55,350
75号	270	205	55,350
76号	270	205	55,350
計			166,050
④通信93号印刷	17,000	1	17,000
94号	17,000	1	17,000
95号	17,000	1	17,000
通信93号発送	90	205	18,450
94号発送	90	205	18,450
95号発送	90	205	18,450
例会はがき	50	410	20,500
計			126,850
⑤本部	2,000	1	2,000
事務局	5,000	1	5,000
編集	5,000	1	5,000
通信	6,500	1	6,500
その他送料	40,000	1	40,000
計			58,500

1998年4月26日 会計 安田明雄

1997年度会員動向

1997年4月1日時点での会員数207名（一般192名、学生15名）別に休会1名
入会4名、退会11名（希望3名、規約6名、逝去2名）

1998年4月1日現在の会員数 201名（一般188名、学生13名）

会費値上げについて

現在の東京蜘蛛談話会の会計状況は従来通りの運営（年間キシダイア2回、通信3回発行）を続けると赤字になります。赤字の補填は特別会計（プール金）から行っていますが、残高には限りがあります。

昨年度の総会で会費値上げを考慮することが確認されました。そして今年度の総会にてその時期や額を具体的に提示することはすでにお知らせした通りです（談話会通信 No. 90）。そこで現在の活動の質は下げないこと、特に会誌・通信の発行回数を削減しないという方向で色々検討して来ました。そして値上げの基本案を1998年4月26日の談話会運営委員会にて作成し、今回の総会に諮りました。

◎資料

収 入	会費 (会員数 201)	一般	¥2,800	×	188	=	¥526,400	
		学生	¥2,000	×	13	=	¥ 26,000	
					計		¥552,400	⇒ ①

支 出	キシダイア作成費	¥200,000	×	2回	=	¥400,000
	発送費	¥270	×	201人	×	2回 = ¥108,540
	談話会通信作成費	¥17,000	×	3回	=	¥51,000
	発送費	¥90	×	201人	×	3回 = ¥54,270
	例会連絡はがき費	¥50	×	201人	×	2回 = ¥20,100
	送料・事務費など					¥70,000
				計		¥703,910 ⇒ ②

収支 ① - ② = -¥151,510 (赤字)
 会員一人当たり -¥754 (151,510 ÷ 201)

特別会計推移予想

	1997年度末	1998年度末	1999年度末	2000年度末	2001年度末
残 高	¥942,558	¥591,258	¥439,748	¥288,238	¥136,728
翌年度繰入額	¥351,300	¥151,510	¥151,510	¥151,510	¥151,510

注1

(注1: '98年度予算総覧)

上記の通り現在の状況と残高推移の予測により、運営委員会では2001年度から一般¥4,000、学生¥2,000とする案を提示しました。

¥4,000では値上げ幅が一人当たりの赤字に対して多すぎること。学生についても値上げすべきという発言もありました。この二つの案に沿って討議の結果、諸経費上昇を念頭に入れて一般は¥1,000値上げで¥3,800になりました。学生は会員状況から考えて、より一層入会定着を計ることを主眼として、案の通り据え置くべきとの意見を取り、¥2,000のままとなりました。また実施時期については会誌1号発行分程度費用の余裕を残すとのことで、案より1年早く2000年度からとなりました。

☆決定事項 *2000年度から、会費は一般 ¥3,800 学生 ¥2,000とする。

*現在(1998. 4. 26)の時点ですでに2000年度以降前納している場合、差額は徴収しない。

*また1998. 6. 1から2000年度以降を前納する場合の額は、新会費とする。

(送金の消印日を基準とする。 '98.5.31までは旧会費の額で可)

(文賢：笹岡)

東京・大井ふ頭地区のゴケグモの状況 (第11回だんわ会ゴケグモ探索会報告)

笹岡文雄

3月22日(日) 東京・大井ふ頭地区(東京都品川区)で、ゴケグモ類の生息調査を行いました。この地区では過去1995年11月から1996年1月にかけて行われた調査で、ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus* が採集されています。しかし一連のゴケグモ騒動の後、まったく調査が行われていませんでした。そこでその後の分布状況とその他のクモ類の状況を調べました。

日 時: 1998年3月22日(日) 12:10 ~16:00 天 候: 曇
調査地: 東京都品川区八潮 大井ふ頭地区(大井ふ頭中央海浜公園、みなとが丘ふ頭公園
コンテナふ頭公園)

参加者: 笠原喜久男、笹岡文雄、貞元己良、高橋 登 4名 (50音順、敬称略)

大井ふ頭中央海浜公園

*ユウレイグモ科		*タナグモ科	
ユウレイグモの一種 y		メガネヤチグモ FM	
*ヒメグモ科		*エビグモ科	
オオヒメグモ FMmy		キンイロエビグモ y	
カレハヒメグモ Fe		*ハエトリグモ科	
サトヒメグモ y		ネコハエトリ y	
		ミスジハエトリ f	

5科7種

みなとが丘ふ頭公園

*ユウレイグモ科		*タナグモ科	
ユウレイグモの一種 FMy		メガネヤチグモ FM	
*ヒメグモ科			
オオヒメグモ FMmye			
マダラヒメグモ FMmye			
サトヒメグモ F			

3科3種
(計5科8種)

調査をした公園はいずれも典型的な都市公園でした。ただ大井ふ頭中央海浜公園の林は落ち葉が残り、比較的林床の環境が良好でした。採集はゴケグモ類の調査のため、敷石の下や側溝を中心に行ったため、確認された種は少なめに終わったと思われます。笹岡が1997年1月に同地で行った予備調査では、上記二カ所の公園とも多数のマダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* の生息が確認されていました。それが今回はみなとが丘ふ頭公園のみで、生息頭数も大幅に減っていました。

またゴケグモ類については、今回確認されませんでした。先のゴケグモ調査で確認されていた場所のコンテナふ頭公園が改修工事によって、環境が激変(ほぼ破壊)したためもあり今回はまったく確認できませんでした。したがって現在東京でゴケグモ類が、確実に生息していると確認できる場所はなくなりました。ただこの大井ふ頭地区はコンテナヤードの面積がかなり大きく取扱量も多いので、まったく生息していないとは断言できません。同じ帰化種と思われるマダラヒメグモの生息状況を考えると、まだどこかの別の場所に生息している可能性はあると思います。

会計は 安田明雄 〒231-0861 神奈川県横浜市中区元町5-219

*近況つれづれ 東方・西方（合同例会出欠ハガキからの転載・一部編集）

東京都編

▽梅林 力（杉並区）

だんだん暖かくなって、クモも活動を始めるので、だんだん楽しく忙しくなりそう。飼育のえさにいろいろ苦勞しています。原稿もたまっているのですが、なかなか書けないので…ゴメンナサイ！！残念です。

▲小澤實樹（世田谷区） ←Look!

今年は、6月2日(火)～7日(日)銀座中沢画廊にて、「クモの形態・デザイン展」を開きます。目下制作中です。追ってみなさまにご案内いたします。ご多忙中でしょうが、ぜひご来場を。

▽小野展嗣（新宿区）

キムラグモの研究にのめり込んでいます。先日は熊本県の日田を一周してきましたが、見つけることができませんでした。御所浦以外にはいないのではないかと…

▲新開 孝（清瀬市） ←Look!

今年3月中旬には、偕成社の自然観察事典シリーズの一冊として、『ヤママユガ観察事典』（p.40）を発刊します。ヤママユの仲間はよくジョロウグモの網にかかったりしております。今回、クモは登場しませんが、里山に生きる、生き物の生活を広く撮影していくつもりです。

▽藤井靖浩（千代田区）

編集委員会の皆さんに迷惑をかけながら、コモリグモの古い野外データをまとめ、学会誌に投稿しています。でもまだ始めたばかり。生きものたちのあいだに割り込んで過ごすあの素晴らしい時を再び味わうことは当分なさそうです。皆さんもそれぞれ忙しいのにエライ！

千葉県編

◎朝倉幹晴（船橋市）

忙しくてなかなかいけません。2000年までには1度出席したいと思っています。

埼玉県編

◇笠原喜久男（浦和市）

ことしの冬は、トゲグモの卵のうを探しに、加藤むつみさんのお共をして、山の中を何度か歩きました。見つかった卵のうのほとんどが、スギかヒノキの樹幹にありました。

KISHIDAIA担当は木村知之 原稿送付は池田博明	〒215-0012神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12 〒258-0018神奈川県足柄上郡大井町金手1099
-------------------------------	--

◆野崎文江（入間郡毛呂山町）

近況とのことです。1月の大雪の頃からヤチグモオス成体が犬の寝ている、すのこの下にいました。なんと犬の毛の中に。いつもすのこをどかして毛が沢山出るので掃除をしていたのですが雪が降ったり-5℃位までの気温の中で寒いだろうと思い掃除をしないでいました。犬は夜すのこの上で丸くなって寝ています。毛の毛布にくるまって、犬の体温で生きていたのです。今もそのままにしてあります。クモの知恵？にビックリ。霜の降りる頃になるとフロ場にスイスイと玄関のすき間から入って来ます。去年の暮れに屋根を修理するため大工さんが工事をしていたので家に入るチャンスを失って犬の毛の毛布にくるまっていたのではないかと。あたたかい場所をよく知っています。犬の体温は37度犬の毛の毛布にくるまって春のようなぬくもりにひたっていたのかもしれない。

神奈川県編

□赤羽尚夫（厚木市）

昨年は「クモの話」の依頼が小学校関係（5年生4クラス、校長会、PTAなど）から多くありました。子供達が「スパイダー」に興味を持ち始めた兆候と考えてよいのでしょうか。期待も込めて。

なお、小学5年生には2時限でピンゴをスライドを使用して行い、校庭を調査し、158人の全生徒から「感想文」を本にして送ってもらい私の宝としています。

■秋元 昇（横浜市）

勤務する高校で「真正クモ類研究会」を創部し五年が経ちますが、毎年部員が集まらずついに廃部の危機に瀕しています。文化祭では町田と川崎の市境で採集したススミグモを生体のまま展示したこともあります。何の反応もありませんでした。高校の所在地町田は、緑が点在する環境は多いのですが、出会えるクモの種類が著しく減っているようで残念です。最近、コガネグモはもちろん、カラスゴミグモにも久しく会っていません。かつてクモの宝庫と新聞報道された野津田の地は、現在公園として整備され、トリノフンダマシ類（トリノ〜、オオトリノ〜、シロオビ、クロ）も姿を消しました。

□今井正巳（相模原市）

昨年に東京蜘蛛談話会に入会し、新しい世界がどんどん開かれ、私にとって刺激的でした。今年もどんなクモに出会えるか楽しみです。

■佐藤幸子（横浜市）

早く暖かくなならないかなア…と毎日思っています。家の中にも外にも、クモの姿が見えないのです。

□谷川明男（横浜市） ←Look!

コガネグモ科の整理をテーマにしています。コガネグモ科のクモの標本でご貸与いただけるものがありましたらぜひお願いします。特に雄の標本、そして関東地方西表島以外で採集されたものは大歓迎です。

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

■新村 誠（川崎市） ←Look!

既に年内の土日はほぼ埋ってしまいました。採集会もなかなか参加できそうにもなく、7月の合宿には何とか、とスケジュール調整中です。ところでクモキチの皆さんの中に、森づくりなんてことに興味のある人は居ませんか。「鎌倉の風致保存林の手入れ」とか、「神奈川県津久井での国有林伐採地に木を植える」とか、やることが一杯です。ちょっと気になった人はご一報を！

大阪府編

※畑守有紀（交野市）

図書室に隠れ住んでいたアブラコウモリを、図書の先生がつかまえました。春休み中だったので、私の自宅まで皿が来ました。『いや〜、先生ならコウモリいるんじゃないかと思って』だ、そうです。『でもクモのエサにされたら、どうしようと思ってたんですけどね』。ハイハイ、我が家でバナナ大好きキューちゃんとしてかわいがってます。

高知県編

☆中平 清（吾川郡春野町）

アオグロハシリグモの「姉サン女房」について詳しく知りたいと思い、この2月から採集飼育を始めました。まとめの出来るのは5年先のことでしょう。何とかやりとげたいと健康に留意しています。

佐賀県編

★宮崎和代（佐賀市）

先日、NHK教育TVの『ムシムシQ』という子供向けクイズ番組を見ていると、「キムラグモはどうしてこんな名前なの」というクイズが出題されました。もうすぐ5才になる長女は「お母さん、このクモ脚が10本あるの？」と言うので「脚は8本よ」と答えつつそう言われると10本に見えないこともないなと感じました。娘の観察眼を少々頼もしく思うとともに、うまく説明できない自分にもどかしさを覚えました。我が家の娘たちは好奇心旺盛で、野外に出ると何度でも触りたがります。クモにもアタックしていますがいつも失敗ばかり。そこで今、気になっているのは、どのクモなら触って安全で、どのクモは危険なのかということです。フィールド図鑑や絵本には”このクモ触るべからず”などという記述は見ありませんでした。野外で気をつけた方がよい（例えば毒性が強いとか、攻撃的であるとか）という記述のある本、または資料で、私のようにクモについてほとんど何も知らない人が見ても、よくわかるものがありましたら教えていただけないでしょうか。

会費は単年度で

一般¥2,800

学生¥2,000

熊本県編

☆入江照雄（熊本市） ←Look!

現在、8月末を目標にオダカユウレイグモのまとめをはじめました。日本、外国の情報がありましたらお知らせください。

宮崎県編

★石野田辰夫（宮崎郡佐土原町）

クモ学会の柱とも言えるべき多くの方を天国に送り、大変寂しい思いです。でも死は誰でも体験する真実、割り切って生き続けねばと言い聞かせている所ですが、セキをしても電気が走る腰痛には閉口しています。1つの標本ビンに10匹もいや30匹も入れて名前をみてくれと頼まれ、毎日みえています。当分、腰痛が続きそう。まだ70本以上が私を見ている。ゴソコソ這って、トイレに行っていたらウツキコモリグモ?数匹が縁側を走り去った。宮崎はクモの活動期突入。

*出欠席のハガキをいただいた方々（50音順敬称略）

出席：新海 明、水野陽介（2名）

欠席：木庭 奏、中島祥吉、浜岡史子（3名）

㊗㊗ 事務局だより ㊗㊗

*会員異動（敬称略：50音順）

（入会・97年受）川崎拓兵、唐沢良子、松田久司、山田三重子

（希望退会）阿部代始子、織茂尚子、河又和夫



東京蜘蛛談話会 1998年合宿について

東京蜘蛛談話会の1998年合宿を以下のように埼玉県秩父市で行ないます。主な観
察のポイントは東京大学秩父演習林を考えています。多数の会員の参加をお待ちしています。

日程：1998年7月25日（土）～27日（月）

宿泊：旅籠「甲武信」 埼玉県秩父郡大滝村大滝 1567 Tel (Fax) 0494-55-0457

費用：交通費 西武池袋線池袋（特急利用）から 秩父鉄道・バス料金を含め
約2600円（片道）

宿泊費（1泊3食付き）8000円（現地にて徴収）

この他に 旅行保険＋通信費として1200円ほどかかります。

交通：A. 鉄道 西武池袋線池袋駅 特急1時間30分 西武秩父駅 徒歩5分
秩父鉄道御花畑駅 約20分 三峰口駅 西武バス 秩父湖行
約35分 秩父湖下車 秩父鉄道バス 川又行 約15分
林平下車 バス停下1分

B. 自動車 国道299号にて秩父市、国道140号にて林平バス停 または
中央自動車道甲府より国道140号にて雁坂トンネル越えて林平
（自動車に参加される方は、申し込み書にその旨を明記下さい）

申し込みは、6月30日までに下記の申し込み書に必要事項を記入の上、新海 明

〒190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103 まで郵送して下さい。

早めに申し込み下さい。参加者には時刻表・道路地図などを別途ご案内します。

_____ キ _____ リ _____ ト _____ リ _____
東京蜘蛛談話会秩父合宿に以下のように参加します（○×を記入して下さい）。

7月25日（土）（ ） 干（ ）

26日（日）（ ） 住所

27日（月）（ ）

氏名 （ ） 才

自動車に参加します（ ） 車

1998年 月 日

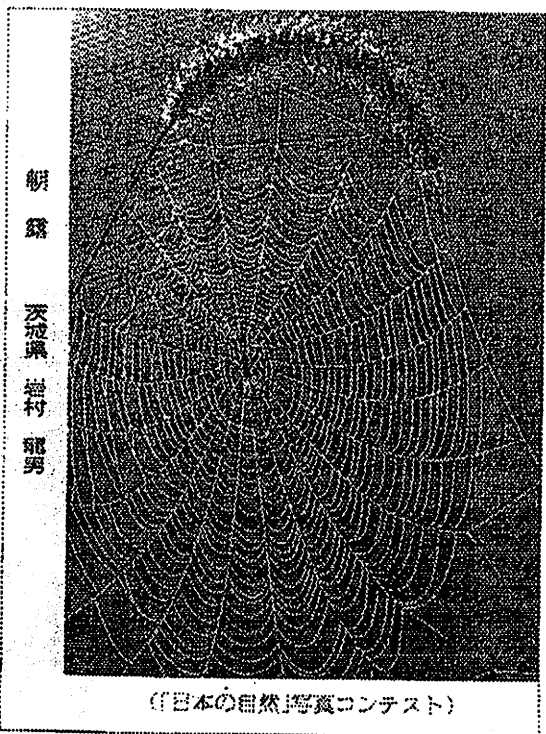
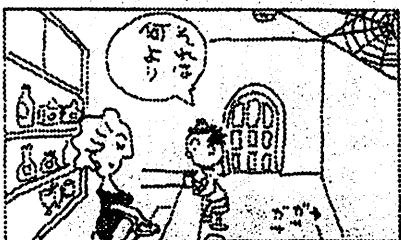
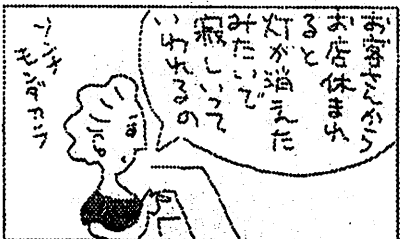
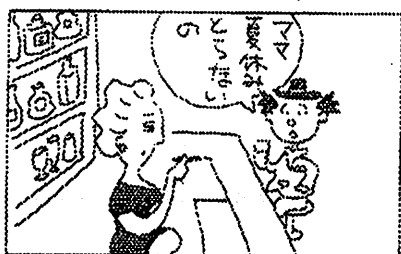
夜明けのシンフォニー
 松崎 幸子
 (「日本の自然」写真コンテスト)



朝日新聞
 '96.8.24

モオ

石ヶ川しげみ



朝露 茨城縣 岩村 龍男

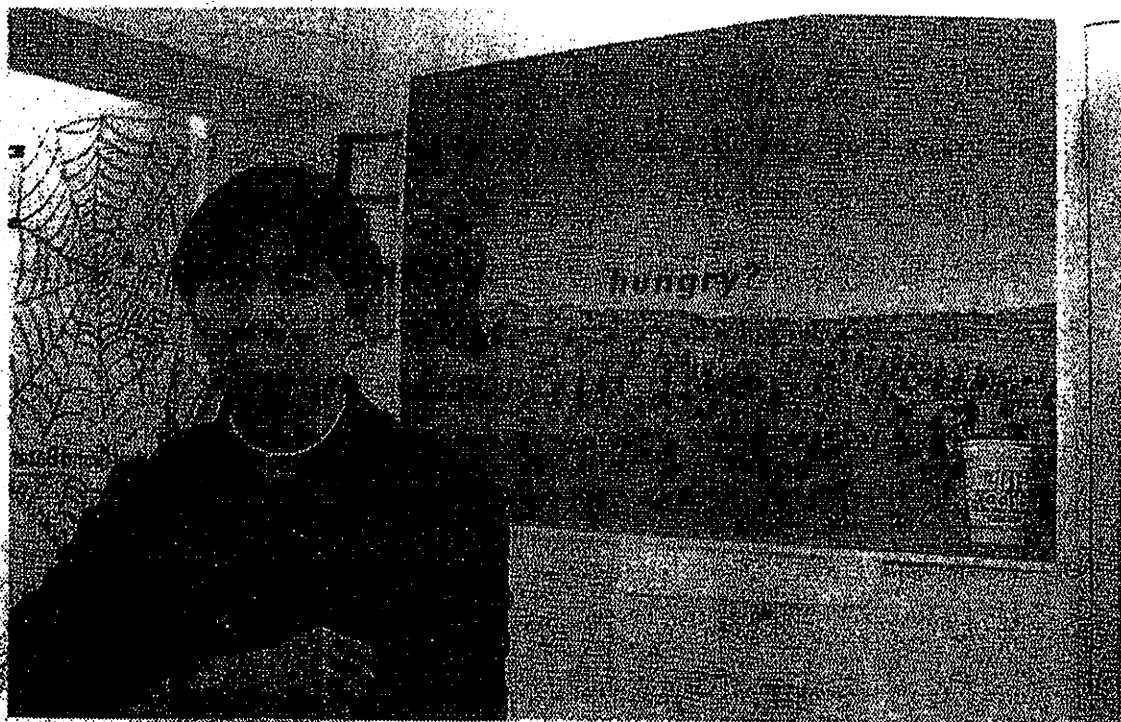
(「日本の自然」写真コンテスト)

↑
 朝日新聞
 '96.8.29

朝日新聞(夕刊)
 '96.8.5

朝日新聞(夕刊)
 '96.6.22

ぴゅんあつぽ



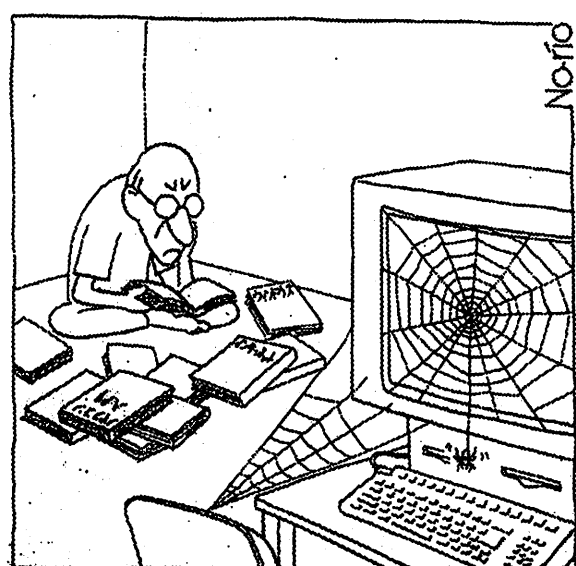
不況で問われる広告の「品質」

テレビでおなじみの、即席めんのコマーシャルと同じポスター。その前にいるのは制作した大貫卓也さん（35）＝写真。このポスターは、昨年からもう8作も続いているシリーズの2作目

「フロントテリウム篇」である。大貫さんは、テレビコマーシャルや新聞・雑誌の広告、ポスターなどを制作するアートディレクター。その代表的な作家たちで作る東京アートディレ

クターズクラブ（ADC）の、今年のADC会員最高賞にこのシリーズが選ばれた。大貫さんにとっては、同賞の受賞は2度目だ。

しかし、彼ら広告制作者の世界も、不況が及びく中で、より厳しい質が求められ、新しい動きが起きているようだ。（15面に関係記事）



Norio

梅林 力さん提供

朝日新聞
'96.7.1

信
大岡

蜘蛛に生れ網をかけねばならぬかな

「高橋虚子全集」。最晩年の昭和三十一年（三十四年没）の「句日記」より。この句は、雑誌「ホトトギス」にちよと、同年七月十七日鹿野山神野寺の種会での作だが、十九日鎌倉での句会でも「蜘蛛網を張るが如くに我もあるか」と詠んでいる。掲出句にある「我れ」の感覚と、それを受けつつ我れにかえって盛いた右の引用句の感嘆と。老虚子を何日間かとらえた蜘蛛の網の映像。なにか刺激剤。

高橋虚子

昆虫学者

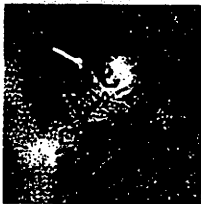
こんちゅうがくしゃ

大好きな昆虫をもっとたくさんみたい。そしてもっと知りたい。そんな幼いころからの夢を実現させたのが、東京大学で昆虫学者として研究にうちこむ宮下直先生です。現在の研究テーマは、クモの生態について。自然界にはまだ人間に知られていないことが、たくさんあるようです。

どんな仕事？



クモを観察する宮下先生



ジョロウグモ



採取した、クモのサンプル

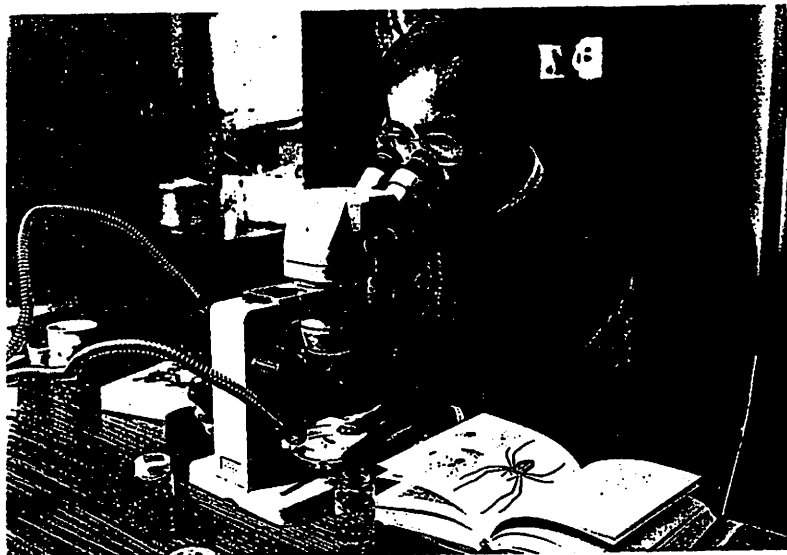
フィールドワーク

春から夏、そして秋の終わりまでは、クモの活動が活発な時期です。宮下先生は、週の大半を大学の演習林に入っています。クモの観察をします。東京都郊外にあるこの演習林は、10 haもの面積があり、人の手がほとんど加えられていません。ですから、自然のままにくらすクモを観察するには、最適な場所なのです。日本にはおよそ1,200種類のクモがいて、その半数近くが網をはって巣をつくる造網性のクモです。ジョロウグモなどに代表される、造網性のクモの行動と生態を何年にもわたって調査し、データを集めることが、宮下先生のここでの最大の目的です。野外観察用のノートを手帳に、夏の炎天下にも、蚊の襲来にもひるむことなく、観察をつづけるのです。

宮下先生のもう一つの研究対象は、イソウロウグモ。日本全土に7種類のイソウロウグモがいるのですが、とくに沖縄県はその数が多く、生態調査には最適な土地です。イソウロウグモは体長約3mmほどのとても小さなクモですが、その行動にはたいへん興味深いものがあります。ジョロウグモなどのほかの大きなクモの巣の近くでくらし、その網にかかった小さなえさを食べたり、ときにはえさに糸をつけてぬすんできたりするのです。宮下先生は、このイソウロウグモの行動のおもしろさにひかれ、1年に3回も沖縄県に調査にでかけました。

研究室で

研究室では、採取したクモの網の太さや構造を、顕微鏡で調べ



たり、卵の数を数えたり、というサンプルからのデータ収集も大切な仕事です。そして、それにもまして重要なのが、長期間の観察記録を分析し、整理することです。

春から秋にかけて、びっしり書きこまれた観察ノートは7冊以上にもなります。その記録をコンピュータに入力して、分析します。クモの活動は、いつも同じようにみえても、その年の天候などの影響をうけて変化をつづけています。このような天候や気温など、あらゆる角度からの影響を考慮に入れながら、クモの行動や生態をあきらかにしていきます。

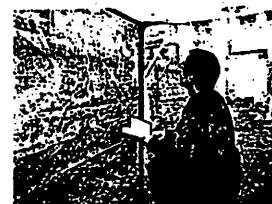
また、宮下先生はいつでもクモを観察できるようにと、大学の研究室のそばにクモのための飼育網を設置しました。近い将来、ここでイソウロウグモを飼育して、研究する宮下先生の姿がみられることでしょう。

論文と学会

何年もの間観察と研究をくりかえして、そのまとめた結果を形にしたのが論文であり、それを発表する場が学会です。この論文こそが研究成果として残り、学者や研究者をはじめ、世の中の評価につながっていくのです。



収集したデータをコンピュータに入力します



クモの飼育網の中で

もっと知りたい!!

正確には、クモは昆虫ではなく、クモ形類に分類されます。しかし、宮下先生にとって、興味深い虫という意味では、チョウやトンボと同じだそうです。そして、いつかは大好きなチョウの研究もしてみたいそうです。



Q 昆虫学者になりたいと思ったのは、いつごろですか?

幼稚園児のころから、野原や山で昆虫を追いかけるのが大好きでした。とりわけチョウに魅力を感じ、小学校の2年生のときには、日本に生息するすべてのチョウの名前をいえるほどでした。このころから、おとなになってもずっとチョウを探してくりしたいと思うようになりました。

チョウ以外にもトンボや鳥が好きだったのですが、大学で生態学を勉強しているときにクモに関心をもち、その行動や生態のおもしろさに引かれて、クモを研究の対象にすることにしました。もちろん今でもチョウやトンボは大好きで、クモの観察中にめずらしいチョウが飛んできたりすると、つい目をうばわれてしまいます。

Q 昆虫学者に必要なことは?



野外で昆虫を観察・調査するフィールドワークは、とても地味で根気のいる作業です。また雨などの条件の悪い日もあれば、蚊の大群におそわれることもあります。しかも、より正確なデータを収集するために、何年にもわたって観察をつづけなければなりません。ですから、はるか先の目標にむかって、あきらめずに小さな努力を積みかさねていく忍耐力と持続力が欠かせません。

それと、どんなことにも疑問をもつことも大切です。世の中にはあたり前だと思われていることがたくさんあります。しかし、そのあたり前のことを、なぜなんだろう、と疑問をだいて探っていくところに新しい発見があるものなのです。

Q 野外観察のアドバイスを!

畑守有紀さん提供

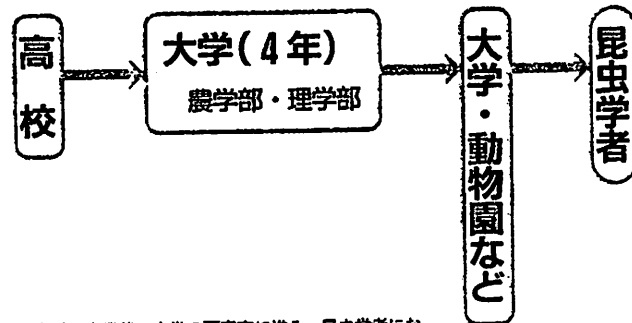
No. 93

付録2

野外で昆虫を観察する場合、観察しようとしている昆虫になじんでおくことが大切です。観察する昆虫を決めると、まず、何處や本でその生息場所や時期、オスとメスの区別の仕方、そしてどんな行動をとるかを調べます。こうして、あらかじめ予備知識をそなえた上で観察にでかけていくと、発見もしやすく、より楽しくなってきます。

また、いくつかの区画を決めて、特定の昆虫の生息密度を比較したり、周辺の状況や環境を調べて、その昆虫にどんな影響をおよぼしているのかなどを探っていくのも、とてもおもしろい野外観察の方法だと思います。

昆虫学者への道



大学を卒業後、大学の研究室に進み、昆虫学者になる人が多いようです。また、動物園で昆虫の飼育にたずさわりながら、昆虫学者として活躍する人もいます。

人間を助けるクモたち

「クモ」と聞いただけで、顔をしかめる人がいます。毒グモのイメージからでしょうか。それとも、雑木林の中などで顔にからみつクモの巣のイメージからなのでしょうか。いずれにしても、動物の中で、クモは人気のない類から数えた方が早いようです。

ところが、そのクモたちは、人間にとってとても有益な働きをしているのです。クモのえさの大半は、人間からみれば農作物に被害をおよぼす害虫です。ほう大な量の害虫を食べ、みずからは尿などのえさになるクモたちは、自然界のバランスを保つ上で非常に重要な役割をはたしているのです。

農作物をあらゆる害虫を駆除するためにクモを利用したのは、中国が最初だといわれています。現在では、そのクモの有用性が認められ、世界各国で害虫駆除にクモを役だてる研究や実験がおこなわれています。しかし、一方で殺虫剤や農薬による害虫駆除もあきかわらずおこなわれており、自然のバランスが人間の手によってくずされているのも、事実なのです。



えさをめすむイソワウグモ(右)